

## 交通バリアフリーニュース



### バリアフリーボランティア実験事業を終えて

～香川独自のホスピタリティーを目指して～

四国学院大学社会福祉学部長 村田 哲康

四国で初めて、香川の地においてバリアフリーボランティア（駅ボラ）事業の試みが行われました。実施において、障害者団体をはじめNPO、交通事業者、行政など関係者の協働型のとくみは、注目に値するものでした。

最近、日本の社会において無関心などで象徴されるように、他人を思いやる人間関係が希薄になってきていると思います。その結果、さまざまな社会問題が次から次へと輩出してきており、そして、みんなが悩まされています。

そんな中で、今回の事業において、少しでも現状をなんとかしたいという気持ちを持った人たちが、ボランティア活動に参加し、自分たちの生活圏の中で、自分たちでやれることは自分たちでやっていこうという真摯な姿勢が確認できたとともに、そこに何かしら期待を持ちたいと思いました。

こうした事業の展開は、人間関係の希薄化してきている中で、今後どう育てていくのか、どうよりよいものにしていくのかということが課題であり、常に念頭において検討していかなければならないことだろうと思います。

今後、駅ボラを継続させていくための方向としては、先行事例の包括的分析や事業において明らかになった問題点などを解決させた上で、観光立県としてホスピタリティー（おもてなし）を前面に打ち出すなど、香川の独自性を取り入れた事業にすることが重要です。そして、関係者が共通した認識を持って一緒に考え、行動していくことが大事であり、また、継続させていく原点であろうと考えます。



村田学部長



今回の事業では、「心のバリアフリー」の実践、意識啓発、人材育成などの一定の成果、事業実施上の課題が確認できました。また、活動できる人と、みんなで議論する場が確保できました。今後は、継続的な活動を実現させ、点から線・面への展開を目標とし、地域を結ぶネットワークをつくり、だれもが安心・安全を享受できる社会づくりが必要だと思っています。

（旅客施設周辺の活性化、魅力づくりに向けた  
バリアフリーボランティア事業推進委員会委員長）

## バリアフリーボランティア事業の実施結果

高齢者や障害者、地理に明るくない旅行者などの円滑な移動を確保するには、ハード面のバリアフリーの推進とともに、これを補完する人的サポート体制の整備などソフト面からのアプローチが不可欠となっています。

今回実施したバリアフリーボランティア事業は、四国運輸局が特定非営利活動法人香川ボランティア・NPOネットワークとの協働事業として取り組み、市民ボランティアによって旅客施設周辺における移動上のバリアを軽減して旅客施設周辺の活性化と魅力づくりを図るとともに、バリアフリーボランティアの育成や今後の事業の効果的・継続的な展開のあり方を検討して公共交通機関の利用促進と公共交通の活性化を図ることを目的として実施しました。

実施に際し、障害者団体、高齢者団体、交通事業者、自治体、研究者、NPO等で構成する「旅客施設周辺の活性化、魅力づくりに向けたバリアフリーボランティア事業推進委員会」を設置し、事業の背景及び実施に関する方向性等を検討しました。

### (1) 駅ボランティア活動の概要

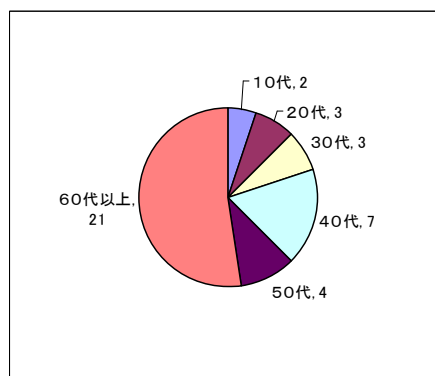
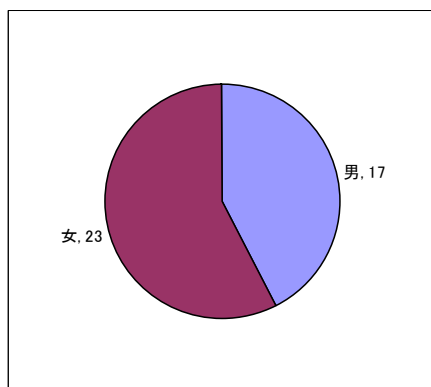
- ① 活動期間：平成18年10月1日(日)～10月31日(火)
- ② 活動範囲：JR高松駅とその周辺  
ことடன்高松築港駅、バスターミナル、タクシー乗り場、サンポートタワー、高松港旅客船乗り場(フェリー乗り場、第1浮棧橋)の範囲
- ③ 活動時間：午前の部10時～13時  
午後の部13時～16時
- ④ 活動内容：JR高松駅改札横にボランティア常駐ブースを設置し、お年寄りや身体の不自由な方などを含むすべての人に対して、JR・私鉄・路線バス・フェリー間の乗り継ぎ案内、切符購入の手伝い、手荷物の運搬、通路・階段の移動の手助け、簡単な観光案内などを実施。



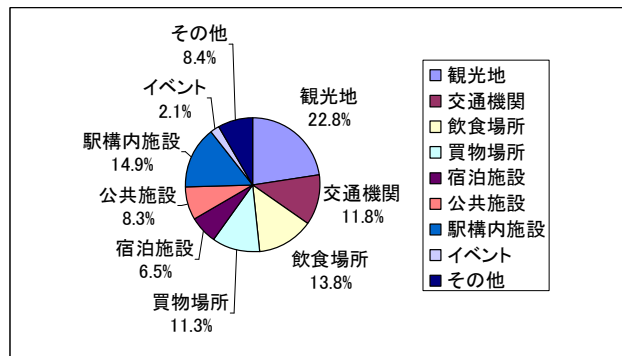
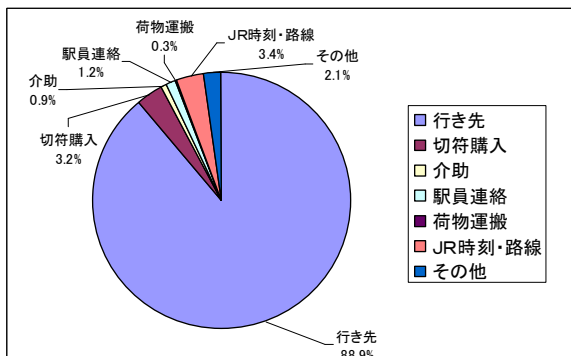
主な活動範囲

### (2) ボランティア応募・参加状況

- ① 応募者数：40名
- ② ボランティア参加延べ人数：228名



### (3)お手伝いの実績と内容(10月4日～10月31日)



| お手伝いの内容 | 件数     |
|---------|--------|
| 行き先     | 2,327件 |
| 切符購入    | 85件    |
| 介助      | 23件    |
| 駅員連絡    | 32件    |
| 荷物運搬    | 8件     |
| JR時刻・路線 | 89件    |
| その他     | 55件    |
| 計       | 2,619件 |

| 行き先案内の内訳 | 件数     |
|----------|--------|
| 観光地      | 538件   |
| 交通機関     | 279件   |
| 飲食場所     | 324件   |
| 買物場所     | 266件   |
| 宿泊施設     | 154件   |
| 公共施設     | 195件   |
| 駅構内施設    | 352件   |
| イベント     | 50件    |
| その他      | 197件   |
| 計        | 2,327件 |

### (4)活動結果のまとめ

- ・観光地、飲食場所、買物場所などの案内に数多く対応できたことで利便性が高まり、地域のサービス向上に寄与できた。
  - ・ボランティアの常駐により来街者に安心感を与えられた。
  - ・意識啓発や人材の育成につながった。
  - ・マスコミによる報道などをつうじて地域における一定の意識啓発につながった。
  - ・参加ボランティアには、事前研修の受講や実践により、接遇、介助技術が向上した。
  - ・困っている人の役に立ちたいなどの動機がある人にとって、ボランティア参加のきっかけとなった。
- など、一定の効果が実証されました。





## (5) 事業実施結果のまとめ

- ・介助の依頼件数は少なかったものの、93件／日のお手伝い実績があり、高齢者からの依頼も多く、サンポート地区にはバリアフリーボランティアのニーズが多いことが分かった。
- ・交通事業者、自治体等関係者との連携によりスムーズな事業運営が行え、関係者間の協力・連携の重要性が確認できた。
- ・事前研修を行うことにより、高度かつ均一なサービスの提供が行われ、ボランティア個人のスキルアップにもつながった。
- ・行き先案内のお手伝いが約89%を占めるなど、交通情報、観光情報、施設情報の充実の必要性が確認された。
- ・利用者ニーズに合致した活動場所、活動時間帯、活動期間などの活動形態の検討が必要であることが確認された。
- ・JR高松駅周辺における持続的なバリアフリーボランティア事業の実施試案を提案できた。
- ・バリアフリールートや周辺案内を掲載したアクセシビリティマップβ版を作成した。



研修会の様子

アクセシビリティマップβ版のイメージ



# 駅ボラ 実施中

こんにちは、このエプロンのボランティアに声をかけてください。

- 荷物を乗り場まで運んで欲しい
- 切符の購入を手伝って欲しい
- 交通機関の乗り場が分からない
- 目的地へ行く経路が分からない
- 通路・階段などの介助が必要
- 電話を代わりにかけて欲しい
- 筆談で教えて欲しいことがある

\* その他、駅および駅周辺の移動に困ったときは、お気軽に声をかけてください。

10月1日～10月31日  
10時から16時

JR四国運輸局 消費実行促進  
特定非営利活動法人 香川ボランティア・NPOネットワーク

## (6) 今後の展開

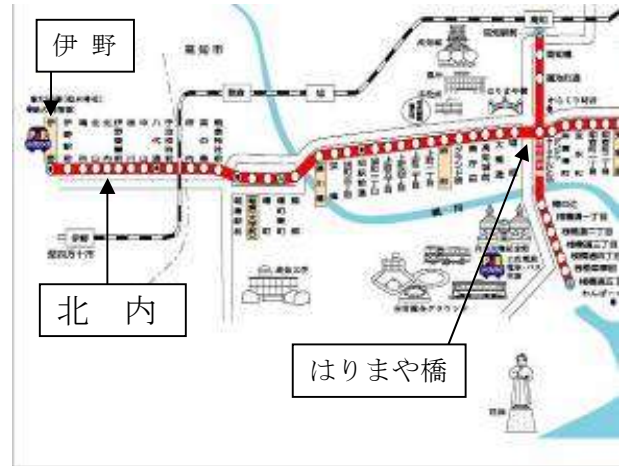
19年度以降の取り組みとして、特定非営利活動法人香川ボランティア・NPOネットワークが昨年の駅ボラ参加者、高齢者団体、交通事業者、自治体などに呼びかけ、今秋からの実施に向け、平成19年6月13日(水)「JR高松駅および周辺旅客施設利用者に向けた産・官・民連携によるホスピタリティの向上」についての意見交換会が開催されました。

## 土電伊野線「北内」バリアフリー対応新電停の紹介

### 土佐電気鉄道株式会社交通サービス部電車グループ技術課

平成19年2月25日(日)高知県いの町および地元北内地区悲願の大型複合商業施設「サニーアクシスの店」が土電伊野線沿線にオープンしました。当商業施設は、店舗面積8,600㎡、駐車 場630台等を誇りイオン高知に続き県内有数の大型複合商業施設となりました。

長年当地区は伊野線沿線にある数少ない遊休地(民地)で当地区を挟んで市街地が途切れた状態になっていたことから当商業施設オープンは「いの町並びにその周辺地域の活性化」に大いに期待されております。



【伊野線路線図】



【北内停留所附近全景写真 手前側至 はりまや橋】

まず商業施設の建設にあたって当地区はJR線、国道33号線、当社軌道伊野線(併用軌道敷)が狭隘に並走している地区でもあったことから公共施設の一体的変更を実施する必要があり各管理者との窓口はいの町が主体となって行いました。

最終的にいの町、地元有力企業である(株)サニーマート(開発者)並びに各管理者(国道管理者、交通管理者、当社軌道管理者等)が「いの町並びにその周辺地域の活性化」のために一体となって取り組んだ結果実現しました。

当社はいの町から次のこと等について要請があり実施しました。

- ①町道の新設交差(交通信号機付交差点)
- ②国道拡幅、新電停設置に伴う軌道移設  
(軌道移設長 247<sup>㍎</sup> 軌道移設幅 5.9<sup>㍎</sup>)
- ③新電停の設置



【北内停留所(上り線)はりまや橋方面行き①】



前段が長くなりましたが、このような状況下で今回紹介します「北内」バリアフリー対応新電停(下り線、上り線)は、当商業施設の最寄りの新電停(伊野商業前～北山間)として平成19年1月10日(水)始発より運用を開始しました。

同日始発電車は夜明け前にもかかわらず当電停に「土佐電鉄の電車とまちを愛する会」等土電ファンが集まり祝賀ムードに包まれました。

当社の新電停は平成12年3月「高知橋」以来7年ぶり。同町内では昭和35年「北山」以来47年ぶりのこととなりました。



【北内停留所(上り線)はりまや橋方面行き②】

完成した電停のバリアフリー設備について概要を紹介します。

- ① 道路から電停ホームまでは高低差約25cmあることから幅広(1.4m)で緩やかなスロープ(5%)、両側手すり(点字標示付)を設置しました。
- ② 電停ホーム(幅1.54m)には電車1両分の上屋(電車接近報知器付)を設置。また一部背面コンクリート壁を切込み折り畳み式ベンチを設置しました。
- ③ 電停ホーム背面、側面には安全柵を設置。前面端部には黄色ペイント(すべり止)を着色しました。
- ④ 点字ブロックはスロープの上下とホームに敷設しました。

またいの町には電停以外関連施設として次のこと等をお願い実施していただきました。

- ① 国道に軌道と並走する道路照明、ガードパイプ付歩行者自転車道の新設整備(開発区間について現在整備済)。
- ② 当商業施設から電停までのアクセス通路(屋根付)の確保。
- ③ 電停付近への駐輪場の整備



【北内停留所(下り線)いの方面行き】

当電停は、当商業施設オープンから数箇月経過し現在1日乗降人員は約200人程度ですが、いの町管内初のバリアフリー対応電停でもあり、利用者の声も好評です。当社としても今後当商業施設等とさらに連携していくことで増客増収に繋げていきたいと考えております。

最後になりましたが「地域発展」のためこの事業にご尽力を尽くされたいの町、開発者をはじめ関係機関、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

## 鉄軌道事業者のバリアフリーへの取り組み紹介

### ○JR内子駅に多機能トイレが設置されました

白壁の町並みで有名な愛媛県喜多郡内子町にあるJR四国の内子駅において、平成19年2月21日に多機能トイレが完成しました。

このトイレは、内子町内の身体障害者の方からの要望を受け、内子町とJR四国が設置について協議してきたもので、国の交通バリアフリー補助を利用し、内子町とJR四国の負担によりこのたび設置されたものです。



JR内子駅全景



多機能トイレ入り口

駅舎の出入り口の近くに設置されているトイレには、オストメイト対応設備が備えられ、ベビーシートや内部と外部を遮断するカーテンなども設けられています。

また、この多機能トイレの設置にあわせて、既存のトイレについても男女別化の工事が実施されました。

内子駅には、平成12年2月にエレベーター(1基)が設置されており、今回の多機能トイレの設置とあわせ、よりいっそう高齢者や障害者の方などにやさしい駅となりました。



オストメイト対応多機能トイレ



案内表示(トイレ入り口)



## ○JR松山駅の多機能トイレにオストメイト対応設備と誘導ブロックが設置されました

これまでのJR四国の松山駅の多機能トイレには、オストメイト対応設備がないため、移動円滑化基準には適合していませんでした。

このたび、駅舎の内外装修繕工事が行われ、この工事にあわせ、トイレにオストメイト対応設備が整備され、平成19年3月に移動円滑化基準に適合する多機能トイレに生まれ変わりました。

また、駅舎前からトイレまでの視覚障害者誘導用ブロックもあわせて整備されました。



オストメイト対応多機能トイレ



視覚障害者誘導用ブロック

## ○ことのでん大町駅にスロープ・視覚障害者誘導用ブロックが設置されました

高松琴平電気鉄道株式会社の大町駅(志度線)では、平成19年3月にホームへのスロープ及び視覚障害者誘導用ブロックが完成しました。スロープは、上り線下り線両ホームの東側(志度方面)に新たに設置されました。

今回の改修は、大町駅に隣接する国道11号線にエレベーター付き歩道橋が設置されることに合わせ、当駅を利用する障害者等の利便性の向上を図るために実施されたものです。



スロープ



視覚障害者誘導用ブロック



## ○伊予鉄道に低床式路面電車が導入されました

平成19年3月、伊予鉄道株式会社の路面電車に低床式車両1両が導入されました。これは、国のLRTシステム整備費補助を利用し、昨年に引き続き導入されたものです。

この車両の床面はホームとの段差が45～200mmで、車いすを利用されている方も車両備え付けのスロープを利用することにより楽に乗降できるようになっています。

伊予鉄道では、平成13年度から計画的に低床式車両を導入しており、18年度末で10両の低床式車両が運行しています。



低床式車両



車いすスロープ

## 徳島で交通バリアフリー教室を開催

1月25日(木)、四国運輸局と徳島運輸支局は、徳島県JA会館において「交通バリアフリー教室」を開催しました。

教室には乗合バス事業者4社から乗務員等34名が参加し、運輸局による講義の後、ジェイアール四国バス(株)及び徳島バス(株)の協力で、徳島県JA会館駐車場に低床、高床二種類のバス車両を



車いす利用者介助体験の様子



高齢者疑似体験の様子

持ち込み、これらのバス車両を用いて「車いす利用者の介助体験」、アイマスクを着用しての「視覚障害者介助体験」、特殊な器具を装着しての「高齢者疑似体験」をそれぞれ実施しました。

参加した乗務員は、高齢者や障害者の立場を実際に体験したことによって、接遇・介助の必要性をあらためて認識したようです。

## 香川県と高知県で交通アドバイザー会議を開催

国土交通省では、公共交通機関の利用者利便向上等を図るためのモニタリング制度として、平成4年度に「交通アドバイザー制度」を創設しています。

この制度に基づき、四国運輸局の管内各県ごとに、当該地域での公共交通機関利用者各層から、職業、性別等を幅広く考慮して、交通アドバイザーを委託しています。

管内の運輸支局では原則として年一回「交通アドバイザー会議」を開催することとなっており、会議では交通アドバイザーの方から、公共交通機関が提供するサービス等の改善に資する意見や国土交通省の公共交通施策全般に対するご意見をいただいています。

今年も各県で交通アドバイザー会議が順次開催されていますが、今回は香川県、高知県での会議の様をお伝えします。

### 香川運輸支局交通アドバイザー会議



会議の様子(香川)

平成19年1月24日(水)に高松市において、香川運輸支局主催で開催された会議では、6名のアドバイザーの方々にご出席いただき、事前にアドバイザーの方々から頂いた、新しい高松市内の循環バス路線についての提言を中心に検討しました。

提案のあった路線の中には、今後の新規路線設置の可能性のあるものや利用促進について「利用者が少ないから便数が少なくてもいいのではなく、利用が増えるような設定が必要」「子供にも環境問題とともに公共交通の大切さを教育していくことが必要」等、様々な意見・提言を頂きました。時代によって変化する利用者ニーズに的確に対応することの重要性を再認識する会議でした。

### 高知運輸支局交通アドバイザー会議

平成19年2月23日(金)に高知市において開催された高知運輸支局交通アドバイザー会議では、岩田 裕 高知大学名誉教授を座長に迎え、7名のアドバイザーの方々からご意見を頂きました。

乗継利便の向上のために、「パーク・アンド・ライド」の積極的PRや、交通事業者間の垣根を越え、乗換えを前提としたダイヤの設定の必要性等についてご提言を頂きました。他には地元住民に限らず観光客や、子供といった新たな利用者層の拡大策や乗務員のマナーアップのための社内教育の必要性などについて様々な角度から活発な意見が出されました。



会議の様子(高知)



## 交通バリアフリー教室について

四国運輸局では交通バリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者・身体障害者等に対し、自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指して交通バリアフリー教室を開催しています。

今後も順次教室を予定していますが、教室開催にご協力いただける事業者、NPOの方からのご連絡をお待ちしています。また、乗務員教育の一環として開催を希望される事業者の方もご一報ください。



### 【編集後記】

先日受講した研修のなかで、「高齢者介助体験」がありました。業務上、バリアフリー教室等でこれらの器具を扱うことはありましたが、恥ずかしながら今まで本格的に自分自身で体験したことはありませんでした。実際に器具を装着し、箸を使ったりペットボトルの蓋をあけたりと細かな作業をしてみると、想像していた以上に日常生活に不便を感じる事が多く、まして不慣れな公共交通機関を利用するにはどれほどの障害があることだろうと思いました。バリアフリー教室等で子供に限らず多くの人に体験して頂き、高齢者や身体障害者の目線にたつことの大切さを感じて頂きたいなと思いました。

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政課まで、FAXまたはメールでお寄せ下さい。



〒760-0064

高松市朝日新町1-30

四国運輸局交通環境部消費者行政課

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp



国土交通省

このニュースは交通バリアフリー関係の話題を中心に、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。

このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。

四国運輸局ホームページもご覧下さい

<http://www.skt.mlit.go.jp/>